

平成27年度

病虫害発生予察情報

第3号

4月月報

北海道病虫害防除所 平成27年5月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujosho/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・多雨（少雪）・多照』下旬中心に気温高く、7年ぶりに高温の4月－

この期間の天気は、上旬と中旬は数日の周期で変化したが、下旬は高気圧の張り出しの中で晴れた日が多かった。気温は下旬は平年よりかなり高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬と中旬は平年よりかなり多かったが、下旬は少なく、月降水量は多かった。日照時間は上旬は平年より多かったが、中旬は少なく、下旬はかなり多く、月間日照時間は多かった。月降雪量は平年よりかなり少なかった。また、1961年の統計開始以降、4月中旬の太平洋側の降水量は最も多く、下旬の北海道地方の気温は最も高かった。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雨や雪の降った所もあった。2日は高気圧に覆われて晴れた。3日は低気圧の影響で雨や雪が降った。日降水量は八雲町八雲で86.0mmなど。4日は高気圧に覆われて概ね晴れた。5日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かったが、気圧の谷が接近し太平洋側では雨や雪が降った。日降水量は登別市カルルスで45.0mmなど。6日は低気圧の影響で雨や雪が降ったが、次第に冬型の気圧配置となってオホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた。7日は冬型の気圧配置となって雪の降った所があったが、太平洋側では晴れた所が多かった。8日ははじめ冬型の気圧配置となって日本海側で雪の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた。9日は高気圧に覆われて概ね晴れた。10日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れたが、南からの湿った気流により太平洋側西部では雨や雪が降った。

中旬：11日は気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨や雪が降ったが、晴れた所もあった。12日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、気圧の谷の影響で日本海側北部やオホーツク海側を中心に雨や雪が降った。13日は高気圧に覆われて概ね晴れた。14日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れたが、南からの湿った気流により太平洋側では雨や雪の降った所があった。15日は低気圧の影響で雨や雪が降った。日降水量は広尾で52.0mmなど。16～17日は低気圧や気圧の谷の影響で、雨や雪の降った所が多かった。18日ははじめ晴れたが、気圧の谷の影響で雨や雪の降った所があった。19日は高気圧に覆われて太平洋側西部などでは晴れたが、気圧の谷の影響で日本海側北部やオホーツク海側では雨や雪の降った所があった。20日は低気圧の影響で雨が降った。日降水量はえりも町目黒で85.0mmなど。

下旬：21日は低気圧の影響で昼頃まで雨や雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側を中心に晴れた所もあった。22～23日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。24日は寒冷前線が通過し日本海側を中心に雨の降った所が多かった。25～30日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照時間	階級
北海道 22 地点平均	+1.4	高	133	多	113	多
日本海側 10 地点平均	+1.3	高	132	多	116	多
林-ツ海側 4 地点平均	+1.8	高	90	並	121	か多
太平洋側 8 地点平均	+1.3	か高	154	多	104	並

(注) 階級分布図は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入場合は「か低(少)」、「か高(多)」「か(かなり)」で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 少

予察ほにおける積雪状況を平年と比較すると、根雪始めは長沼町では平年並、芽室町では早く、訓子府町では遅かった。融雪期は、長沼町では平年より早く、芽室町では平年並、訓子府町ではやや遅かった。積雪期間は、長沼町と訓子府町では短かったが、芽室町では長かった。

雪腐病の発病度を平年と比較すると、すべての地点において平年より低かった。病原菌種別で見ると、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病、芽室町では紅色雪腐病、訓子府町では雪腐黒色小粒菌核病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率と被害面積率はともに平年より低かった。ただし、後志地方の一部では被害面積率が高まった。病原菌種別では、全道的に紅色雪腐病の割合が高く、道央および道北地域では雪腐褐色小粒菌核病、道東では雪腐黒色小粒菌核病の割合が高かった。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月6日	12月6日	3月24日	4月6日	108	121
芽室町	12月3日	12月10日	4月8日	4月6日	126	119
訓子府町	12月17日	12月6日	4月5日	4月2日	109	119

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	7	20.8	10
	ホクシン	6	11.6	10
	きたほなみ	6	11.4	5
芽室町	チホクコムギ	12	32.4	10
	ホクシン	9	22.9	10
	きたほなみ	20	31.8	6
訓子府町	チホクコムギ	13	45.2	10
	きたほなみ	18	32.8	6
	きたもえ	14	33.0	6

予察ほにおける雪腐病の病原菌種別発生割合（単位：％）

地点	長沼町					
	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
品種名						
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0.0	0	0.0	0	0.0
雪腐黒色小粒菌核病	24.0	1.6	17.9	1.6	14.7	1.0
雪腐褐色小粒菌核病	52.0	62.6	64.1	69.8	64.7	60.0
紅色雪腐病	24.0	4.0	17.9	3.2	20.6	12.4
褐色雪腐病	0	31.9	0	27.5	0	26.6

(前ページより続く)

地点	芽室町					
品種名	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	34.4	3.0	36.1	0	16.8
雪腐黒色小粒菌核病	6.0	28.8	19.0	30.1	13.0	32.3
雪腐褐色小粒菌核病	27.0	14.0	9.0	11.7	6.0	9.7
紅色雪腐病	67.0	22.8	65.0	22.1	81.0	41.3
褐色雪腐病	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0

地点	訓子府町					
品種名	チホクコムギ		きたほなみ		きたもえ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	10.0	29.3	10.0	28.0	5.0	22.3
雪腐黒色小粒菌核病	75.0	48.6	70.0	43.4	85.0	65.0
雪腐褐色小粒菌核病	0	2.9	0	0.4	0	0.4
紅色雪腐病	15.0	19.2	20.0	28.2	10.0	12.3
褐色雪腐病	0	0.0	0	0.0	0	0.0

一般ほにおける雪腐病の発生状況（総合振興局・振興局別調査結果）

振興局	作付 面積(ha)	発生面積率(%)		被害面積率(%)		発生ほの病原菌種別発生割合(%)					
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色	その他
空知	15,011	18.5	61.8	1.4	9.2	0.1	76.3	8.9	2.1	12.6	0
石狩	7,029	36.8	77.3	0.7	14.7	0	37.6	1.6	42.8	18.0	0
後志	1,364	65.2	51.8	10.3	1.3	0	84.6	2.4	4.8	8.2	0
胆振	1,546	7.4	18.0	0.0	2.0	0	26.8	1.8	67.3	4.0	0
檜山	532	32.5	18.2	0	1.1	0	58.9	12.4	28.7	0	0
上川	9,768	38.8	78.7	2.8	21.6	0	64.7	15.8	9.0	10.5	0
留萌	715	53.7	73.4	0.0	8.3	0	88.9	0.0	6.2	4.9	0
オホーツク	24,359	43.8	33.9	3.1	4.0	0.5	10.9	27.7	56.5	4.5	0
十勝	44,969	20.9	14.5	1.3	1.5	2.4	2.5	33.4	60.0	0.0	1.7
全道計	105,293	29.3	36.7	1.9	5.9	0.9	26.5	22.8	43.4	5.8	0.5

注) 大粒：雪腐大粒菌核病、黒小：雪腐黒色小粒菌核病、褐小：雪腐褐色小粒菌核病、紅色：紅色雪腐病
褐色：褐色雪腐病、その他：スッポヌケ病

2. 赤さび病 発生期 早 発生量 並

予察ほの赤さび病抵抗性“弱”である「ホクシン」または「きたもえ」における初発日は、長沼町では平年並、芽室町および訓子府町では平年より早かった。主力品種である「きたほなみ」の初発日は、長沼町および芽室町では平年より早かった。訓子府町では未発生である。発生量は各地点とも平年並であった。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率 (%)*		平年数
				4 月 6 半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	ホクシン	4 月 27 日	4 月 28 日	0.01	0.02	10
	きたほなみ	4 月 27 日	5 月 4 日	0.05	0.02	5
芽室町	ホクシン	4 月 27 日	5 月 6 日	0.01	0.01	10
	きたほなみ	4 月 26 日	5 月 12 日	0.02	0.01	6
訓子府町	きたもえ	5 月 5 日	5 月 15 日	0	0.00	6
	きたほなみ	未発生	5 月 18 日	0	0	6

注) *: 全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 やや早 発生量 やや少

予察ほのうどんこ病抵抗性“弱”である「チホクコムギ」における初発日は、長沼町では平年並、芽室町および訓子府町では平年よりやや早かった。発生量は、平年に比べやや少なかった。主力品種である「きたほなみ」において、長沼町および訓子府町で平年よりも早い初発を認めた。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率 (%)*		平年数
				4 月 6 半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	4 月 30 日	4 月 28 日	0.05	0.13	10
	きたほなみ	5 月 6 日	5 月 13 日	0	0	5
芽室町	チホクコムギ	4 月 23 日	4 月 27 日	0	0.11	10
	きたほなみ	未発生	5 月 8 日	0	0.01	6
訓子府町	チホクコムギ	4 月 28 日	5 月 1 日	0.01	0.09	10
	きたほなみ	4 月 29 日	5 月 10 日	0.01	0	6

注) *: 全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生量 やや多

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、各地とも平年より早かった。誘殺頭数は、北斗市では平年より多く、芽室町および訓子府町では平年よりやや多く、長沼町では平年並であった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月4半旬	0	0.1	6	0.6	0	0.0	—	0.0
5半旬	2	1.1	16	1.6	1	0.2	0	0.1
6半旬	4	2.0	18	3.4	4	0.3	4	0.5
5月1半旬	1	3.3	24	13.0	9	0.7	0	6.1
2半旬	5	11.4	4	24.8	1	2.2	3	6.2
初誘殺日	4月12日	4月24日	4月12日	4月23日	4月23日	5月3日	4月28日	5月5日

注) —: トラップ未設置

C. りんご

1. ハダニ類 (リンゴハダニ) 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町(無防除)で0卵(平年: 0.3卵)、余市町(慣行防除)で0卵(平年: 0卵)と平年並であった。

2. ハマキムシ類 (ミダレカクモンハマキ) 越冬卵量 並 発生期 早

予察園の5年枝1本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町(無防除)で0卵塊(平年: 0卵塊)と平年並であり、余市町A(慣行防除)で0.04卵塊(平年: 0.01卵塊)とやや多かった。余市町Bでは卵塊が認められなかった。余市町における越冬卵のふ化始は、4月23日(平年: 5月8日)と平年より早かった。